

佐賀方言と北九州方言における間接疑問文 —補文性とイントネーション—

日高俊夫

(九州国際大学・神戸松蔭言語科学研究所)

1 問題点の所在

1.1 先行研究

東京方言における(1)のような文は YesNo 疑問文と WH 疑問文の解釈の両方が可能である (Takahashi, 1993) のに対して、それに相当する佐賀方言¹の(2)の文は基本的に YesNo 疑問文としてしか解釈されない。

- (1) ケンはマリが誰に会ったか今でも知りたがっているの？(YesNo / WH)
YesNo 疑問文に対する答：うん、知りたがっているよ。 / WH 疑問文に対する答：ヒロシだよ。
- (2) 佐賀方言: ナオヤはマリがだいに会うたか今でん知りたがととと？(YesNo / *WH)
YesNo 疑問文に対する答：うん、知りたがとととよ。 / WH 疑問文に対する答：*ヒロシばい。

■ 西垣内・日高 (2010, 2013) : WH 素性と焦点素性の含意関係の違いとして分析し、Deguchi and Kitagawa (2002) の疑問文のスコープと焦点イントネーションのドメインの関係性に基き、Ishihara (2004) の補文標識 C による派生的な焦点素性 [+F] の付与のメカニズムを用いて、その解釈の違いを論じた。

■ 松井 (2011) : その考え方を応用し、Pierrehumbert and Beckman (1988) のモデルを用いて PF における具体的メカニズムを提案。

■ 日高 (2014) : 佐賀方言の疑問標識「こっちゃんい」を東京方言の「か」「やら」と比較し、「こっちゃんい」は「やら」よりも「か」に近いものの、「か」ほど完全な補文構造を作っていないことを主張。

- 「こっちゃんい」は、「か」と異なり、**WH** 句がなければ格助詞を伴いにくく、**WH** 句があっても格助詞がない方が自然である。

(3) a. ?*マリはケンがパーティーに出席すっこっちゃんいば²覚えとらん。
(マリはケンがパーティーに出席するかを覚えていない。)
b. マリは、何人がパーティーに出席すっこっちゃんい (ば) 覚えとらん (ばい)。
(マリは、何人がパーティーに出席するか (を) 覚えていない (よ))
- **WH** 句がない場合、「か」は主動詞が「伝える」等の単なる伝達を表すものでも補文標識として機能しやすいが、「こっちゃんい」は機能しにくい。

(4) ?*ケンはナオミにマリがパーティーに出席すっこっちゃんい (ば) { 言うた / 伝えた / 手紙に書いた }³。
- 「こっちゃんい」は「か」と異なり、補文中の疑問の焦点になる名詞句が不定だと (格助詞なしでも) 容認性が落ち、名詞句が定でも格助詞を伴いにくい。

(5) a. ?ケンが本ば買うたこっちゃんい知とととと？
b. ?*ケンはナオミがその本ば買うたこっちゃんいば知とととと？

¹本稿で言う「佐賀方言」とは、いわゆる無アクセント方言に分類される、佐賀市を中心とした地域で話される方言のことを指す。

²「ば」は東京方言における「を」に相当する。

³この場合、「こっちゃんい」を「こっちゃんいどがんこっちゃんい」にすると問題なく容認され、それは東京方言の「かどうか」に相当し、「ば」があってもなくても容認性は変わらない。このことから考えると、「こっちゃんいどがんこっちゃんい」節は、補文として、より機能しやすいと言えそうである。

1.2 解決すべき問題

■ Speriority?

(6) a. 何を誰が持ってきたの？

b. ?*なんぼだいが持ってきたと？(佐賀方言) (西垣内・日高, 2013)

「こっちやい節は補文をなしていない」というだけではこの現象は説明できない。

(7) a. 誰に誰が会ったの？ / ?だいにだいが会うたと？

b. 誰を誰が殴ったの？ / ?*だいばだいが殴ったと？

■ 伊藤 (2014) における東京方言の分析

(8) Beck (2006) : 否定、wh 要素、焦点化のマーカ―は、wh 要素とそれを認可する補文標識の間に現れると、wh 要素の認可を阻む働きをする。

Intervention Effects: *[Q_i [...[intervener [... wh-phrase_i...]]]]

「こっちやい」は「か」と同じように名詞句も等位接続できるが、その場合、東京方言の「か」と同じ振る舞いをするのか？違うとすればそれはなぜか？

「こっちやい」が補文を作る力の強さと、Wh 句を含む佐賀方言のアクセントやイントネーションの両方が絡んでいると考えられるので、そこを少しでも解き明かしていきたい。

2 単文疑問文の文末助詞の機能と音調

佐賀方言の疑問文は必ずしも文末の上昇を伴わない。そこで、単文疑問文について、文末が上昇する場合とそうでない場合（および疑問の終助詞「と」の有無）を観察し、意味の違いをある程度詳細に観察してみたい。

2.1 佐賀方言の yes-no 疑問文とフォーカス

■ 通常の yes-no 疑問文 : 「と」を伴う場合、文末は必ず上昇⁴

(10) a. Q: ケン] はニンジンば買うた*(と)↗

(何の前提もなく質問できる疑問文)

A: うん、そうよ。 / いんにや、買うとらんよ。 / ?いんにや、大根ばさい。 / 知らんよー。

b. ?*ケン] は] ニンジンば買うたと →

■ 「と」がなければ文末が上昇しないが、純粋な疑問というより、echo question 的性格が強い。

(11) a. Q: ケンは [ニンジンば買う] た →

A: うん、そうよ。 / いんにや、買うとらんよ。 / ?いんにや、大根ばさい。 / #知らんよー。

b. ?*ケンは] ニンジンば買うた →

⁴佐賀方言にはこの他にも、主に成年男性が使う「こ」という疑問の終助詞がある。この終助詞は、次のように「と」の後につけることもできる。

(9) あさんな昨日どけおった(と)こー(お前は昨日どこにいたんだ)

しかし、「と」なしで「こ」が直接付加する場合と「と」が介在する場合で意味や用法が若干異なるようである。このことについては今後の課題とし、今回は「と」に絞って分析をすすめた。

無標の音調の場合、特にフォーカス要素はない（述部全体がフォーカス）。

■フォーカス要素を含む yes-no 疑問文：意味によって文末上昇の有無が変わる

- (12) a. Q: ケンは [ニンジン] ば買うたと ↗
(質問者がケンが何かを買ったとっていて、それがニンジンであることを質問)
A: うん、そうよ。/#いんにゃ、買うとらんよ。/いんにゃ、大根ばさい。/知らんよー。
- b. Q: ケンは [ニンジン] ば買うた(と) →
(ケンが何かを買ったことを相手が知っていることを前提に、それがニンジンかどうかを確認
「ケンが買ったのは人参だったっけ?」に近い)
A: うん、そうよ。/#いんにゃ、買うとらんよ。/いんにゃ、大根ばさい。/
(何ば買うたこっちゃい)#知らんよー。
つまり、純粋な疑問というより相手の知識内容を確認
- cf. ケンはニンジンば買うたとっ。
(話し手による強い断定)

- (13) a. あんた知らんやろうばってん、ケンは [ニンジン] ば買うたと ↗
b.?*あんた知らんやろうばってん、ケンは [ニンジン] ば買うたと →

「と」を含む「文末の上昇」は、「純粋な疑問」であることを表す。文末の上昇はそこで派生を収束させる役目?文末上昇がなければ純粋な疑問でなく、派生が続き、フォーカスやモダリティ的な意味に関わる素性を照合する。

2.2 東京方言の yes-no 疑問文

- (14) a. ケンはニンジンを買った?(文末は必ず上昇)
b. ケンはニンジンを買ったの?(文末は必ず上昇)

2.3 東京方言の「の」と佐賀方言の「と」

■松村(1971)

[4] 終助詞

一般には、終助詞「の」は準体助詞の「の」から派生したもので、「活用語の連体形および終止形につく」とされる。

接続

- 〈1〉形容動詞および形容動詞型助動詞の連体形につく。
1 何がそんなに不満なの
2 さっきから話し中なの
〈2〉完結した文の文末の活用語の終止形につく。
3 そのエレベーターは故障しているの
4 これはいいの

用法

- 〈1〉断定表現に用いられ、その語調がやわらげられる。(現代語ではもっぱら女性が用いる。)
1 これは田中さんにもらったの
2 あの人行きそうもないの

ア. これらを上昇調のイントネーションをつけていえば、疑問表現になる。疑問詞とともに用いられる場合もある。

■ 佐賀方言の「と」は準体助詞由来ではなく接続助詞の「て」（東京方言の「...(だ)と」）に由来？

- (15) a. 私の-おいがと
b. 太郎の-太郎がと
c. 私の車-おいが車
d. 太郎の車-太郎が車
e. 大学の図書館-*大学が図書館 / 大学の図書館 / 大学ん図書館
f. 緑のリボン-*緑がりボン、緑のリボン / リボンの緑かと
g. 腕の毛-*腕が毛 / 腕の毛
h. 少しの間-*ちょこつとが間 / ちょこつとの間
i. 雑誌の読み終わったのを-雑誌の読み終わったとば
j. 古い時計の外国で買ったのを-*古か時計の外国で買うたとば (cf. 古か時計ば外国で買うたとば)
k. コーヒーの濃いのを-/ コーヒーのこゆかとば / コーヒーんこゆかとば

- (16) a. 昨日どこ行ったね-? (直接尋ねている感じ) / 昨日どこに行ったの?
b. 昨日どこ行ったとね-? (「話してください」という感じ) / *昨日どこに行ったの X?

そうだとすれば、佐賀方言の「と」を伴う節が統語的な「名詞節」として働きにくい(日高, 2014)理由となるのではないか。

- (17) a. ?ケンが尋ねたとはナオミが何ば食うたこっちゃいばい。(ケンが尋ねたのはナオミが何を食べたかだ。)
b. *ケンが尋ねたとはナオミが来たこっちゃいばい。(?ケンが尋ねたのはナオミが来たかだ。)
c. ケンが尋ねたとはナオミが来たこっちゃいどがんこっちゃいばい。(ケンが尋ねたのはナオミが来たかどうかだ。)
d. ?*ケンが覚えとつとはナオミがいつ来たこっちゃいばい。(ケンが覚えているのはナオミがいつ来たかだ。)
(日高, 2014)
- (18) a. 友達の来たとば喜んだ。(友達が来たのを喜んだ。)
b. ?*友達の来たとばほとめいた。(友達が来たのをもてなした。)
c. 木ば切つとば手伝うた。(木を切るのを手伝った。)
d. ?木ば切つたとば燃やした。(木を切つたのを燃やした。)
(日高, 2014)

2.4 wh-疑問文

■基本的に wh-句にアクセント核はなく、文末は必ず上昇（「問い詰め」の場合を除く）

- (19) a. ケンはどけ行った(と)↗/*ケンはどけ行ったとー
b. ケンはなんば食べた(と)↗/*ケンはなんば食べたとー
c. だいがそば食べた(と)↗/*だいがそば食べたとー

■ wh-句がアクセント核を伴えば、文末は上昇しない（ただし確認や問い詰め、あるいは非難のニュアンスが伴う）

- (20) a. ケンはどけ]行った(と)(か)
b. ケンは[な]んば食べたと(か)
c. だ]いがそば食べたと(か)⁵

wh-疑問の場合も、純粋な疑問文では文末が上昇する。それに伴って wh 素性がチェックされて派生が収束する。wh-要素がプロミネンスを持つ場合、そのプロミネンスは **Foc** や **Force** によって派生的に素性が与えられた音韻的具現形。

■東京方言：wh-句にアクセント核があり、文末の「の」の上昇は任意

- (21) a. ケンは[ど]こに行ったの？
b. ケンは[な]にを食べたの？
c. だ]れがそばを食べたの？

東京方言の wh-疑問文は文末を上げてあげなくても、wh-句の強さが変わらない限り意味に大きな違いはない。→東京方言では、文末の上昇の有無にかかわらず「の」によって純粋に統語的に **Foc** 素性が与えられる。

- (22) a. いったい誰が来たかどうかを 田中は知りたがっているの？(金水, 2014)
b. ?*いったい だいが来たこっちゃん(どがんこっちゃん)ば 田中は知りたがととと ↗?
c. いったい だ]いが来たこっちゃん(?*どがんこっちゃん)ば 田中は知りたがととと ↗/↘?(「']は強勢)
(上昇調は強い疑問(Foc?) / 下降調は問い詰め(Force?)。「か」を付加してもほぼ同じ意味。)

- (23) a. 田中が知りたがってるのは誰が来たかどうかなの ↘?
b. *田中が知りたがとととはだいが来たこっちゃん(どがんこっちゃん)と？

■北九州（門司）方言（外輪東京式アクセント（金田一, 1977））：

wh-句にアクセント核があり、文末は明示的疑問詞がなく、上昇しない⁶

yes-no 疑問文：文末は上昇

- (24) a. ケ]ん さ]が行った⁷↗?

⁵これらの場合 wh 句を強く発音することによっても同様の意味が得られる。むしろその方がもとの佐賀方言の音かもしれない。

⁶文末に「の」を伴うこともできるが、その場合は「の」で上昇する。

⁷インフォーマントによれば、門司では「そこ」「それ」はほとんど使わず、相手のいった表現をそのまま使うということなので「ケンそこ行った?」とは言わない。

- b. ケ]ン そ]ば たべた 入?

選言を含む yes-no 疑問文：文末は上昇しない

- (25) ケ]ント]フル か ト]ーイック 受]けたー?

wh 疑問文：文末は上昇しない

- (26) a. ケ]ン ど]こ 行った
 b. ケ]ン な]ん 食]べた
 c. だ]れが そ]ば 食]べた⁸

Speriority

- (27) a. だ]れが [な]ん 持ってきたー?
 b. な]んを だ]れが 持ってきたー?

2.5 ここまでのまとめ

	yes-noQ 上昇	wh アクセント核	終助詞	whQ 上昇	Speriority?
(28) 東京	+	+	(の)	任意	-
門司	+	+	-	-	-
佐賀	+	-	(と)	+	+

- (29) a. wh-句がアクセント核を担う → 文末上昇は任意（東京） / 文末上昇なし（門司）
 b. wh-句がアクセント核を担わない → 文末は上昇（佐賀）

門司方言は wh-疑問文に関しては、疑問に関する形態的・音声の手がかりがない。

門司方言：wh 要素は Foc 素性を持って派生に参加？あるいはゼロの疑問詞がある？

3 否定の介入効果

3.1 伊藤 (2014)

- (30) 日本語の yes-no 疑問文：否定の介入効果を受ける（中国語は受けない）

*君はトフルかトーイックを受けたくないですか？

Goro (2007)：「か」は PPI であり、否定の作用域では解釈されない（中国語の“或者”は否定の作用域内で解釈されるのが普通）

(伊藤, 2014)

⁸ 「誰」に関しては、インフォーマント（一人）の中でも頭高型と尾高型で揺れがあるようだった。

3.2 Ito and Oshima (To appear)

Ito and Oshima (To appear) : Japanese has two tonally different varieties of the negative polar interrogative, and this tonal contrast has an information-structural basis.

- (31) a. 甘くない？
- b. A is eating an orange. B has heard that oranges this year are exceptionally sweet (although he has not eaten one so far). B utters (31a).
 → P(ositve) type: the phrase containing the negation is *part of ground*
 → The negation is “fake”.
- c. A eats a piece of orange and makes a grimace. B utters (31a).
 → N(egative)N(eutral) type: the phrase containing the negation is *part of the focus*.
 → [I]t has the ability to license an NPI while it is not compatible with a PPI. /
 The negation is a “genuine” or “true” negation

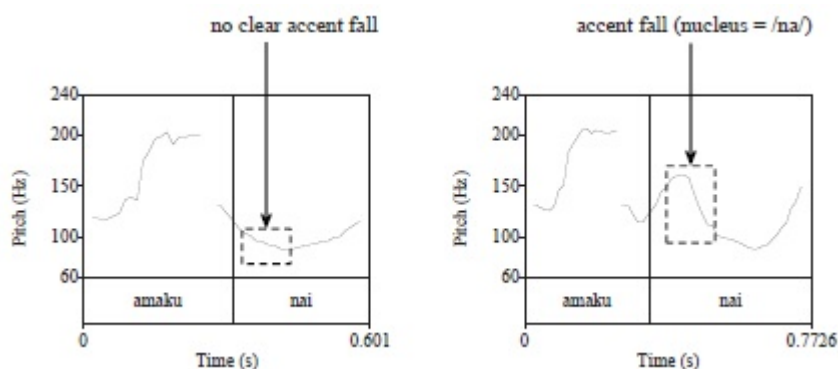


Figure 1 “Amaku nai?” uttered in situations (31a) (left) and (31b) (right)

■ 佐賀方言

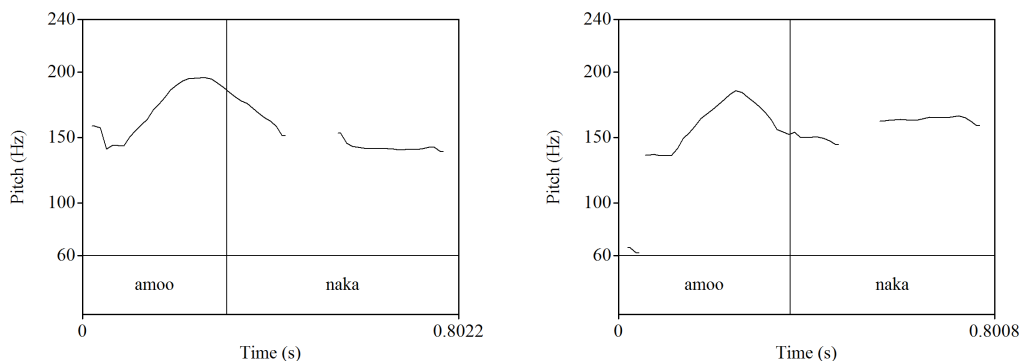


Figure 2 “Amoo naka?” uttered in situations (31a) (left) and (31b) (right)

NN type の場合、「ない」が若干上昇するが、東京方言ほどはっきりしたアクセントを示さない。

3.3 *君はトフルかトーイックを受けたくないですか？ (= 30) (伊藤 2014)

■ 東京方言の yes-no 疑問文：否定の介入効果を受ける

Goro (2007) : 「か」は PPI であり、否定の作用域では解釈されない。

- (32) a. *君はトフルかトーイックを受けたくないですか？*(↗)？(NN type)
 { 君はトフルかトーイックを受けたくない } ですか？

- b. 君はトフルかトーイックを受けたくないですか(入)? (勧誘: P type)
 {君はトフルかトーイックを受けたく_iない_iですか?
 Ans. はい、受けたいです。/いいえ、受けたくありません。

■佐賀方言の yes-no 疑問文: 否定の介入効果を受けない?

- (33) a. あなたはトフルこっちやいトーイックば受けとうなかですか(入)? (P type / ?NN type)

P: Ans. はい、受けたかです。/いんにや、受けとうなかです。

NN: Ans. いんにや、受けたかです。/はい、受けとうなかです。

- b. ?*あなたはトフルこっちやいトーイックば受けとうなかですか?* (入)?

- c. あなたはトフルこっちやいトーイックば受けとうなか(と)ですか?* (入)?

Ans. はい、(どっちでん) 受けとうなかです。/いんにや、(トーイックは) 受けたかです。

- (34) 佐賀方言では、「なか」(ない)にプロミネンスがあっても **fake negation** の解釈 (**P type**) が可能 (**NN type** の解釈もできそう)。

- a. 東京方言: P type → プロミネンスなし

NN type → プロミネンス (ただし当該構文においては否定の介入効果のため容認しにくい)

- b. 佐賀方言: P type → プロミネンス

NN type → プロミネンス

■ 解決すべき問題: どうして佐賀方言では「なか」に音韻的プロミネンスがおかれても **NN Type** はもちろん、**P type** として解釈も解釈可能なのか?

- 佐賀: NI にプロミネンスが置かれることと、それが否定の意味に解釈されることには直接の関係はない。
- Goro (2007) の「か」は PPI であり、否定の作用域では解釈されない」という主張が正しいとすれば、佐賀方言の場合は、
 - 1) 「こっちやい」は PPI ではない (中国語の“或者”と同様、否定の作用域内で解釈されるのが普通)
 - 2) 「こっちやい」は PPI であるが、この場合否定の作用域で解釈されていない。
 - 3) 「こっちやい」は PPI の性質に関して未指定である。
 - 4) 「こっちやい」が **intervener** として機能していない。

(35) (=33)

- a. あなたはトフルこっちやいトーイックば受けとうなかですか(入)? (P type / NN Type)

P: {あなたはトフルこっちやいトーイックば受けとう_iなか_iですか

Ans. はい、受けたかです。/いんにや、受けとうなかです。

NN: {あなたはトフルこっちやいトーイックば受けとうなか}ですか

Ans. いんにや、受けたかです。/はい、受けとうなかです。

- b. ?*あなたはトフルこっちやいトーイックば受けとうなかですか?* (入)?

- c. あなたはトフルこっちやいトーイックば受けとうなか(と)ですか?* (入)?

LF: [FP トフルこっちやいトーイックば]_j{あなたは ______j 受けとうなか(と)}ですか

Ans. はい、(どっちでん) 受けとうなかです。/いんにや、(トーイックは) 受けたかです。

cf. (OK?) トフルかトーイックは、あなたは受けたくないですか?/

あなたが受けたくないのはトフルかトーイックですか?

Ans. 佐賀方言でも東京方言でも、**P type** では「ない」は補文外に移動（あるいは基底生成）し、ドメインから外れる。東京方言の場合、それによって「ない」は本来の否定の意味を失って、低く発音される。また、佐賀方言では、「と」が入らなくても **NN Type** の解釈が可能になることから、(35) は直接話法的な構造をしていると考えられる。

- (36) あんたは「トフルこっちゃんトイックば受けとうなか」（と）ですか
cf. あんた、トフルかトイックをうけたくないん？cf. 君はトフルかトイックを受けたくないの（ですか）？

4 wh 要素の介入効果

■ 東京方言

- (37) a. 選択疑問文：wh 要素の介入効果を受けない（中国語は受ける）
君は誰がトフルを受けるか、トイックを受けるか知りたいですか？
b. yes-no 疑問文：wh 要素の介入効果を受ける（中国語は受けない）
*君は誰がトフルかトイックを受けるか知りたいですか？ (伊藤, 2014)
- (38) 君はトフルかトイックを誰が受けるか知りたいですか？（「トフルかトイックを」は Foc?）

■ 佐賀方言

- (39) a. 選択疑問文：wh 要素の介入効果を受ける（中国語は受ける）
*あんたはだいがトフルば受くっこっちゃん、トイックば受くっこっちゃん知りたかですか（入）？
cf. あんたはケンがトフルば受くっこっちゃん、トイックば受くっこっちゃん知りたかですか？(yes-no 疑問文)
b. yes-no 疑問文：wh 要素の介入効果を受けない（中国語は受けない）
あんたは誰がトフルこっちゃんトイックば受くっか知りたかですか？
- (40) 佐賀方言の選択疑問文：wh 要素の介入効果を受ける（中国語は受ける）
*あさんな、だいがトフルば受くっこっちゃん、トイックば受くっこっちゃん知りたかこ？
cf. あさんな、ケンがトフルば受くっこっちゃん、トイックば受くっこっちゃん知りたかこ？
- (41) 日本語の yes-no 疑問文：wh 要素の介入効果を受ける（中国語は受けない）
*君は誰がトフルかトイックを受けるか知りたいですか？(=37b)

5 その他の介入効果

■ Tomioka (2007)

- (42) a.?*誰も何を読まなかったの。 cf. 何を誰も読まなかったの。
b.?*ジョンしか何を読まなかったの
c.??誰もが何を読んだの。 cf. 何を誰もが読んだの。
d.??誰かが何を読んだの。 cf. 何を誰かが読んだの。
e???ジョンかビルが何を読んだの。 cf. 何をジョンかビルが読んだの。

■ 佐賀方言

- (43) a. だいでんなんば読まんやったと。(分配解釈なし)
 b. ?太郎しかなんば読まんやったと?
 c. だいでんなんば読んだと。
 d. *だい {か/こっちやい} なんば読んだと。 cf. *なんばだいか/こっちやい読んだと?
 e. ジョンこっちやいビルがなんば読んだと?

参考文献

- Beck, S. (2006). Intervention effects follow from focus interpretation. *Natural Language Semantics*, **14** (1), 1–56.
- Deguchi, M. & Kitagawa, Y. (2002). Prosody and Wh-questions. In Hirofumi, M. (Ed.), *Proceedings of the Thirty-second Annual Meeting of the North Eastern Linguistic Society*, pp. 73–92.
- Goro, T. (2007). *Language-specific constraints on scope interpretation in first language acquisition*. University of Maryland.
- Ishihara, S. (2004). Prosody by Phase: Evidence from Focus Intonation Wh-scope Correspondence in Japanese. In S. Ishihara, M. S. & Schwarz, A. (Eds.), *Interdisciplinary Studies on Intonation Structure I*, pp. 77–119. University of Potsdam.
- Ito, S. & Oshima, D. Y. (To appear). On two varieties of negative polar interrogatives in Japanese. *Japanese/Korean Linguistics*, **23**.
- Pierrehumbert, J. & Beckman, M. (1988). *Japanese Tone Structure*. The MIT Press.
- Takahashi, D. (1993). Movement of *wh*-Phrases in Japanese. *Natural Language and Linguistic Theory*, **11**, pp. 655–78.
- Tomioka, S. (2007). Pragmatics of LF intervention effects: Japanese and Korean Wh-interrogatives. *Journal of Pragmatics*, **39-9**, pp. 1570–1590.
- 伊藤さとみ (2014). 「選択疑問文の分析—英語、中国語、日本語の比較から」. 『日本言語学会第 148 回大会予稿集』, pp. 432–437. 日本言語学会.
- 金水敏 (2014). 「疑問文の意味と構造」. 研究発表会ハンドアウト, 国立国語研究所日本語疑問文の通時的・対象言語学的研究.
- 金田一春彦 (1977). 「アクセントの分布と変遷」. 『日本語 11 方言』, pp. 12–180. 岩波書店.
- 西垣内泰介・日高俊夫 (2010). 「Wh 構文の解釈と韻律構造」. 『日本言語学会第 141 回大会予稿集』, pp. 272–277. 日本言語学会.
- 西垣内泰介・日高俊夫 (2013). 「Wh 構文の解釈と韻律構造—佐賀方言と東京方言の対象—」. *TALKS*, **16**, pp. 99–116.
- 日高俊夫 (2014). 「間接疑問文と「補文性」—佐賀方言の疑問標識を例に」. 『日本言語学会第 148 回大会予稿集』, pp. 356–361. 日本言語学会.
- 松村明 (1971). 『日本文法大辞典』. 明治書院.
- 松井理直 (2011). 「音韻部門における統語的焦点素性の韻律解釈」. *TALKS*, **14**, pp. 45–80.